

告示	番号	6	免疫疾患
	疾病名	乳児一過性低ガンマグロブリン血症	

乳児一過性低ガンマグロブリン血症

にゅうじいっかせいていがんまぐるぶりんけっしょう

概念・定義

6か月以降の乳児で血清 IgG 値が年齢相当の-2SD 未満で、IgA および IgM が正常であり、その他の原発性免疫不全症が否定されたものである。

症状

一部の患者は無症状であるが、生後 6-12 か月頃から反復性細菌感染症に罹りやすくなる。中耳炎、副鼻腔炎などの上気道感染症を主とし、肺炎、敗血症、髄膜炎などの全身感染症は稀である

合併症

時に好中球減少症や血小板減少症を合併することがある

治療

生後 18 か月から 36 か月で回復するので、無症状の患者では特に治療を必要としない。症状を呈する患者では抗菌薬の予防内服などを行うが、重症あるいは難治性の場合には免疫グロブリン補充療法を行う

抜粋元：http://www.shouman.jp/details/10_3_29.html